

「いい先生」になることをめざして

教員採用試験を現役合格し、春から憧れの教員になる4年生6名の座談会。

「いい先生」になるために取り組んできた活動や試験対策など、現役合格者がリアルなエピソードを交えて語り合いました。

■ 教員になりたいと思ったきっかけは?

井上さん

私自身が、小学生の頃に転校を3度も経験し、心細い想いをした経験から、「児童たちにとって、学校やクラスを最も安心できる場所にしたい」と思うようになったのがきっかけです。当時の私は環境の変化が大きく、内気な性格だったので、自分から一歩踏み出す勇気がありませんでした。「先生になったら、児童一人ひとりの想いに寄り添い、安心できる居場所をつくりたい」。その想いを叶えるために、教員を志望しました。

武田さん

高校時代に出会った古典と日本史の先生の影響で、本格的に教員をめざすようになりました。特に、古典の先生は、理解しづらい物語でもイラストを交えて端的に説明してください、工夫次第で授業が分かりやすく面白くなるということを教わりました。そこからは自分も教員になるという夢に向かって一直線。大学進学を決める際も、教員の養成に定評のある本学に決めました。

松岡さん

本学を卒業し、小学校教諭として働く兄の姿に、漠然とした憧れを持っていました。ただ、教員をめざす決意手になったのは高校3年生の時です。部活動で結果が出せず、進路でも悩んでいた時に、担任の先生が、「私の考えを尊重したうえで道を示してください、前に進めるよう背中を押してくれました。些細なことかもしれないが、私にとってはそれがとても励みになりました。その時、初めて「こんな先生になりたい」と思いました。

戸松さん

小学生の頃から算数や数学が得意で、友人によく勉強を教えていました。今まで解けなかった問題が解けた時の友人の喜ぶ顔を見るのがうれしくて、将来は人に何かを教える仕事に就きたいと思うようになりました。また、小さい頃からずっと野球を続けていましたが、中学生の頃から、選手よりも指導者のほうに興味が移っていました。そういう体験から必然的に、算数や数学の楽しさを伝えられ、部活動も指導できる教員をめざすようになりました。

白石さん

中学時代に、学校に行きづらい時期があり、保健室の先生に救われたことが、養護教諭をめざす最初のきっかけでした。大学入学後は、2年次から2年間、小学校でのインターンシップを経験し、実際に保健室で業務を行い、来室する子どもの不安な顔を何人も見てきました。そんな彼らをケアし、安心した顔で教室に帰っていく姿を見た時に、この仕事のやりがいを感じ、「養護教諭になりたい!」という気持ちがさらに強くなりました。

江谷さん

留学を経て海外で働くという夢を叶えるため、短期大学で英語を学び留学も控えていましたが、コロナ禍の影響でまさかの白紙に。先が見えず悩んでいた時、短大の先生から教員の道を勧められ、実習面が充実する本学へ再進学しました。最初は教員をめざすというよりも教育を学ぶ目的で入学しましたが、「講義や実習を通じて教えることの楽しさを自覚」。教員についてもっと深く学びたいと思うようになったのがきっかけです。



大阪府中学校(国語)教諭合格 大阪府

人文社会学部※1 日本学科
武田 空馬さん
東大谷高等学校 出身

特別支援学校教諭合格 愛知県中学校(数学)教諭合格 大阪府小学校教諭合格

教育学部 小学校教育コース※2
祐佳さん
学校 出身

大阪府高等学校(地理歴史)教諭合格 大阪府養護教諭合格

教育学部 教育学科 保健教育コース※2
井上 穂香さん
大阪府立久米田高等学校 出身

大阪府養護教諭合格

教育学部 教育学科 保健教育コース※2
白石 彩花さん
石川県立鹿西高等学校 出身

※1 2024年4月より文学部 日本学科 ※2 2024年4月

より教育学部 教育学科 学校教育コース ※3 2024年4月より社会学部 社会学科

■ 教員をめざしてがんばった活動・取り組みは?

戸松さん

私は、小学校と中学校で計4校のスクールサポーターを経験しました。なかでも、授業の様子を動画配信サイトで共有されている数学の先生から、ICTの活用方法を学べたことは大きな収穫でした。また、スクールサポーターでお世話になった先生に自主的にお願いし、大学生ながら先生方の校内研修にも参加させていただきました。多様な生徒たちとのコミュニケーション方法はもちろん、授業などで活用できる実践的スキルの引き出しも増えたと思います。

武田さん

本学で行う模擬授業の事前準備にあたる教材研究を自主的に取り組んできました。実際に授業を展開するためには事前に教科書を読み込み、内容の特徴を捉えることが欠かせません。例えば、国語の場合は、物語の時勢や登場人物の心情といった特徴を読み解き、それをいかに授業に落とし込めるかが大事になります。授業をスムーズかつ分かりやすく進めるうえでのポイントになるため、抜かりのないよう取り組んできました。

松岡さん

私は2年次からピアサポーターとしての活動を行いました。後輩たちからの学習相談や生活相談などを受け、アドバイスなどで問題を解決に導けるようサポートしました。この活動を通じて、「相手の緊張を和らげるためには、正面ではなく斜めに対座する」といったように、相談時の知識を得ることができました。また、ピアサポーター同士での役割分担や引き継ぎなどを行った経験から、「チームとして機能することの重要性も学ぶことができました。

井上さん

3年次からの2年間、中学校のバレーボール部の部活動指導員として生徒たちと一緒に汗を流しながら、指導に携わりました。指導面では、生徒たちに分かりやすい的確なコーチングや、生徒が自主的にがんばりたいと思えるような声掛けなどを心掛けました。学生時代の私がそうだったように、部活動を通じて自分で考えるとの大切さを学んでもらえるよう実践経験を積みました。

白石さん

養護教諭は、児童・生徒たちの心身の健康を守る専門職です。「いい先生」になるには、養護教諭としての知識や技術を確実に身につけるために、日々の積み重ねが必要と考え、まずは大学のひとつひとつの授業を大切に受講してきました。「今日学んだことは、その日のうちにモノにする」。これ目標に日々を過ごしていました。学んだことを実践するという意味では、小学校でのインターンシップも貴重な経験になりました。

江谷さん

様々な場所で沢山の人々と出会い、触れ合うことで、相手に寄り添える「いい先生」に近付けると思い、学生時代だからこそできる活動ができるだけ多く経験しました。教育委員会でのインターンシップ、海外ボランティア、ゼミ活動で企画した子ども食堂などを体験する中で、現場ならではの気付きや学びを積み重ねることができました。学校で多様な児童たちと出会うことを考えれば、こうした学生時代の経験が、今後の私の支えになると思います。

■ 教員採用試験に向けて特にがんばったことは?

井上さん

4年生に進級する春休み期間から試験本番前日まで、自主勉強会のメンバーで集まって週1~2回のペースで面接練習を実施しました。質問に対する返答や場面指導についての内容を練るだけでなく、自分の癖を把握して自然に振る舞えるよう意識しながら練習しました。それに加えて、他の人への質問を必ず自分の中で答えてみることも、心掛けたことの一つです。自分の番だけではなく、面接のご指導をいただいただけなく、愛知県の教員採用試験についての情報も得ることができました。

白石さん

教職教育推進センターの先生方との面接練習や、友人と模擬授業を重点的に練習しました。試行錯誤を繰り返す中で、自分らしい面接、模擬授業を見出すことができたと思っています。また、筆記試験対策で役立ったのが、教職教育推進センターが実施する教員採用試験の直前講座。採用試験の傾向や予想、押さえおくべきポイントなどをレクチャーしていただいたおかげで、効率的に対策ができました。

江谷さん

もともと人前で話すことが苦手なので、私も面接練習に注力しました。ただ、当初は下を向いて話したり、要点を絞り切れなかったり、相手に伝えたいことが届かなかったりと、失敗の連続。面接練習が憂鬱になった時もありました。そんな状況を乗り切ることができたのは、教職教育推進センターの先生方のおかげ。どんなに忙しくても相談事に耳を傾け、何度も練習に付き合っていただき、感謝の言葉しかありません。私自身も練習を重ねることで次第に自信が芽生え、本番でも練習の成果が実りました。

■ あなたが考える「いい先生」とは?

井上さん

どのような児童に対しても深い愛情を持って接し、一人ひとりに応じた対応ができる、クラスの全員に受け入れられる教員です。私が小学生の頃に心細い経験をしたからこそ、毎日児童全員と真剣に向き合って、心と心で会話し、誰一人として児童に寂しい思いをさせないクラスを築きます。

武田さん

戸松さん

生徒たちと一緒に成長できる教員です。今後も、生徒たちの価値観やスタンダードはどんどん変化していくと思います。私たちも歩みを止めず、時代の変化に合わせた教育を実践しながら、この先もアップデートし続けていきたいと思います。

白石さん

児童・生徒たち一人ひとりと向き合い、寄り添える先生です。私の場合は養護教諭ですから、児童・生徒たちから不安や悩みを話してもらうためには、信頼関係を築くことが不可欠。心の内を正直に打ち明けてもらうことができれば一緒に悩み、考えることができて、安心につながっています。また、児童・生徒たちは成長段階で気持ちも変化していくので、向き合い続けることも大切だと考えています。

松岡さん

「教える側」だけでなく「教わる側」になりましたが、生徒とともに成長していく向上心のある先生です。インターシップや教育実習などを通じて、生徒たちからアドバイスなどを受けながら、教員としての立ち居振る舞いなどを学んでいます。私が短大の先生から教員の道を勧められ、本学で「教員になりたい」という気持ちが固まつたように、今度は私が児童たちをバックアップしていくことを楽しみます。

